

認定こども園概要（令和4年10月1日現在）

認定こども園名称	保育所型認定こども園 幸町すいせんこども園			
所在地・問合せ先	〒983-0836 仙台市宮城野区幸町3丁目12-18 TEL：022-385-7530 FAX：022-291-3080			
利用定員	73名（令和4年10月1日現在の在園児数 73名） うち1号認定・・・ 3名（令和4年10月1日現在の在園児数 0名） うち2・3号認定・・・70名（令和4年10月1日現在の在園児数 73名）			
受入可能年齢／月齢	生後2か月～			
令和5年度 園児募集定員 (1号認定)	満3歳児 の入園	入園の可否	<input type="checkbox"/> 可 <input checked="" type="checkbox"/> 否	
		入園可能時期		
	3年保育（年少）	2年保育（年中）	1年保育（年長）	
	1名	0名	0名	
2・3号認定児童の受入については仙台市で決定を行うため、申込みは区役所へ。				
制服	なし			
給食 (1号認定)	実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
	実施日	週 5日（月～金）		
	調理場所	<input checked="" type="checkbox"/> 園内 <input type="checkbox"/> 園外		
給食（2・3号認定）	2・3号認定児童の場合は、毎日給食があります。			
通園バス	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	主なバス運行 範囲：		
登園日 教育・保育時間	1号認定	月～金	8：30～13：30	
	2・3号認定 (標準時間)	月～土	7：00～18：00	
	2・3号認定 (短時間)	月～土	8：30～16：30	
休業日	長期休業日 (1号認定)	春休み	3月 22日 ～ 4月 1日	
		夏休み	7月 24日 ～ 8月 23日	
		冬休み	12月 20日 ～ 1月 8日	
	その他休業日	1号認定～3号認定共通：日曜日、祝日、年末年始（12月30日～1月3日） 1号認定：土曜日、土曜行事（運動会・発表会等）参加時の振替日		
未就園児 教室・ クラス	実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
	未就園児 教室名	わくわくデー		
	主な活動内容	同年齢のクラスに入っの体験保育、園庭開放、行事へのお誘い、子育て相談		
	対象年齢	活動回数	活動時間	定員
	0～2歳児	年間20～30回	10:00 ～ 12:00	3組程度
	歳児	月 回 曜日	: ～ :	名
	歳児	月 回 曜日	: ～ :	名
	その他			
	料金	材料費・食費などがかかった費用・保険等		
利用方法	事前受付予約制			

障害児保育		受け入れの可否	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否 <input checked="" type="checkbox"/> 応相談	
		方針	面談や専門家の意見などで判断します。集団保育が可能で共に育ちあいながら一人一人が伸び伸びと生活できるようにしていく。	
保育料等費用	無償化対象(※1)	保育料(月額)	全額無償となります。	
	無償化対象外(※2)	入園時費用(1号認定)	入園審査料	2,000円
			入園準備金(入園後は教材費に充当)	6,000円
		その他月額費用	給食費(1号認定)	5,200円
			食材料費(2号認定)	(主食費1,500円/副食費4,500円)6,000円
			教材費(1号認定・2号認定)	500円
			教育費(1号認定・2号認定)	500円
			布団リース代(午睡時利用)	550円
			おむつ処理代(希望者のみ)	350円
			おむつ定額サービス(希望者のみ:オムツ処理代を含む)	2,750円
保護者会費	250円(年額3,000円)			
その他費用	おやつ代(1号認定)	1回:午前50円(満3歳児)/午後100円		
	スポーツ振興センター共済掛金	年額 240円		
預かり保育(1号認定)	早朝預かり	実施日・時間・1日の預かり人数上限	月～金 7:00～8:29 (人数上限なし)	
		料金(※3)	30分毎 150円	
	通常日預かり	実施日・時間・1日の預かり人数上限	月～金 13:31～18:00 (人数上限なし)	
		料金(※3)	30分毎 150円 (利用時間帯によりおやつ代別途)	
	休業日預かり	実施日・時間・1日の預かり人数上限	土曜日、長期休業日及び土曜行事参加時の振替休日 7:00～18:00 (人数上限なし)	
		料金(※3)	30分毎 150円 (利用時間帯によりおやつ代別途)	
	実施しない日		日曜日、祝日、年末年始(12月30日～1月3日)	
新入園児の入園式前(4月1日から)の利用		<input type="checkbox"/> 可 <input checked="" type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> 応相談		
卒園児の卒園式後(3月末まで)の利用		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> 応相談		
延長保育(2・3号認定)		実施日・時間・料金 受入可能年齢/月齢	月～金 18:01～19:00 月額3,000円、または日額500円(6回を超えた場合は一律月額3,000円) 月～金 19:01～20:00 日額500円(※令和4年度まで実施) 土曜日 18:01～19:15 日額500円 (土曜日は、原町すいせんこども園で共同保育を実施) 18:01からの延長保育は1歳から、 19:01からの延長保育は1歳6か月から利用可 ※令和5年度より、月～金の延長保育は19:00までとなります。	
◆◆幼児教育の無償化について◆◆				
<p>※1 保育料については、1号認定児は満3歳児クラスから、2・3号認定児は3歳児クラスから全額無償となります。</p> <p>※2 実費として徴収される費用(通園送迎費、食材料費、行事費など)は無償化の対象になりません。ただし、年収360万円未満相当の世帯の子どもと第3子以降の子どもは、3歳児クラスから副食(おかず、おやつ等)費用の減免制度があります。</p> <p>※3 預かり保育の利用料については、保育の必要性の認定を受けた場合(父母等それぞれが月64時間以上就労している場合等)に限り、満3歳になった後の最初の4月1日(3歳児クラス)から、利用日数に応じて1日あたり450円(月額11,300円上限)を上限に無償化になります(満3歳児については、保育の必要性の認定を受けた住民税非課税世帯の子どもに限り無償化の対象となります)。</p> <p>なお、2・3号認定児の延長保育料は無償化の対象外です。</p>				
⇒ 幼児教育の無償化に関する詳細は、仙台市HP「幼児教育・保育の無償化について」をご覧ください。 https://www.city.sendai.jp/nintechosa/mushouka_gaiyou.html				

防犯対策	防犯警報ベル	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし				
	警備会社と契約し、保育中は門扉を施錠しています。防犯カメラの設置しています。職員による不審者対応避難訓練を年2回程度実施しています。					
卒園児の通う 主な小学校	・幸町小学校 ・幸町南小学校 ・柘江小学校 ・東仙台小学校 ・燕沢小学校					
職員の状況	施設長	1名	保育教諭	19名	保健師・看護師	1名
	栄養士	2名	調理員・用務員	3名	事務員	1名
	バス運転手		清掃員	1名	合計	28名
特別保育事業等の実施状況						
乳児保育事業	実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし				
	乳児受入月齢	生後2か月から				
	乳児保育に関する特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・SIDS予防を実施（睡眠中5分おきのチェック）、朝夕の検温 ・冷凍母乳対応 ・個別に応じた離乳食対応 ・担当制の導入 				
園庭遊具	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒 ・砂場 ・三輪車 （※近くに柘江の森や与兵衛沼、消防グランドなどがあるのでよく散歩に行きます。）					
その他 (特色など)	重点目標『子供の心身の成長を育みながら生きる力の土台を作る』 ☆保育の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・わらべ歌やふれあい遊びを通して情緒の安定を図ると共に、ゆったりとした心地よい環境で人との関わりを深めていきます。 ・子ども自らが、遊びや生活に取り組みたくなるような環境を整え、自発的に行動する力や学びの基礎を培います。 ・近くの森やグランドに散歩に行ったり運動遊びなどで身体を動かし、色々な動きを獲得しながら体づくりに取り組んでいます。 ・身近かな野菜を育てて、収穫やクッキングを取り入れながら、自然との関係性や食の大切さを知らせていきます。 ・子どもの育ちなど保護者の方々と共通認識を図りながら、一緒に子育てをしていきます。 ・地域に根ざしたこども園になるよう、体験保育や行事、園庭開放などを通して交流を図っていきます。 					